



「旅立ちの君たちへ ～縁起の中に生き、慈悲の心をもって～」

校長 林 学

高校生活の締めくくりを迎え、皆さんはそれぞれの未来へと歩みを進めようとしています。新たな環境に身を置き、多くの人と出会いながら生きていくこれからの人生において、ぜひ心に留めてほしいことがあります。それは、仏教の根本思想と言える「縁起(えんぎ)」という考え方です。

「縁起」とは、この世のすべての出来事や存在は、決して一人で、あるいは一つだけで成り立っているのではなく、無数のつながりや支え合いの中で生まれ、存在しているという考えです。皆さん一人ひとりもまた、家族、友人、先生方、地域の方々、そして多くの目に見えないご縁に支えられて、今日という日を迎えています。

この縁起の世界に生きる私たちに求められる心が、「慈悲」です。慈悲とは、他者の苦しみに心を寄せ、その人の幸せを願い、行動しようとする心です。競い合うことや成果を求めること自体が否定されるわけではありません。しかし、自分だけが満たされればよいという生き方では、真の意味での充実や安心にはたどり着けないのもまた事実です。

皆さんは中学一年生のとき、「コロナ禍」という未曾有の事態を経験しました。当たり前だと思っていた日常や学校生活が、いとも簡単に失われてしまう現実を、身をもって知った世代です。その経験は、「人は一人では生きられないこと」、そして「今、この瞬間がどれほど尊いものか」を深く心に刻んでくれたはずで

私たちが生きる社会は今、AIの急速な進化や国境を越えたつながりの広がり、多様な価値観が共に生きる「共生社会」へと向かっています。タイパやコスパといった効率が重視され、より早く「正解」を求められる時代だからこそ、人の痛みや弱さに心を向けられる力、すなわち慈悲の心が、これまで以上に大切になっていきます。

どのような道を選んだとしても、自分が縁起の中に生かされている存在であることを忘れず、他者を思いやる心を持ち続けてください。その姿勢は、巡り巡って、必ず皆さん自身の人生を支える力となります。

皆さんの前途が、多くの良きご縁に恵まれ、実り多いものとなることを心より願い、餞の言葉といたします。



「輝かしい未来を切り拓く一員として活躍してください」

中学教頭 廣瀬 政幸

第78期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。あっという間の3年間、そして6年間だったのではないのでしょうか。全国に4,600余の高等学校がある中で、男子校はわずか92校しかありません。その数も年々減少して共学化している学校が増えています。みなさんは、貴重な存在である男子校という環境の中で様々なことを学んでくれたと思います。特に、茶道教育を授業に取り入れている男子校は本校しかありません。「和敬清寂」の精神をこれからの人生にも役立ててください。人と人との繋がりを大事にしてください。日本社会は少子高齢化がさらに加速していきます。みなさんの若い力がこの国を支えていかねばなりません。決してあきらめることなく、輝かしい未来を切り拓く一員として活躍してください。そして、卒業後も藤嶺学園藤沢中・高等学校を応援してください。

第78回卒業証書授与式 ご卒業おめでとうございます



第66号
令和8(2026)年
3月1日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
(高校)
川村一樹 高橋航之介
古谷貴一 堀竹涼平
秋山 尊 塩見那摩斗
中園智晶 大庭新
中原圭太 代島蒼一朗
(中学校)
村瀬弘旭 石崎航成
題字 東山 右衛門先生

3月1日講堂にて、第78回卒業証書授与式が挙行政されます。先生方から卒業生への贈る言葉を寄せて頂きました。先輩方、ご卒業おめでとうございます。【秋山 中園 大庭】



「ご卒業おめでとうございます」

高校教頭 香西 義之

ご卒業おめでとうございます。皆さんはいよいよこの藤嶺台から巣立つこととなりますが、変化の激しい時代を力強く歩んでほしいと願っています。国際情勢が揺れ動き、AIが急速に発展する現代にあっては、単なる知識や技術だけではなく、人を思いやる心、対話する力、自ら考え決断する力がこれまで以上に求められます。

本校の校訓である「勇猛精進」は、困難に臆することなく挑戦し続ける姿勢を示し、「質実剛健」は、飾らず誠実に、自らを鍛え抜く精神を示しています。そして三年間の茶道教育で学んだ「和敬清寂」の心——相手を敬い、その場を大切に、静かに自分を見つめる姿勢——は、多様性の社会を生きる上での確かな土台となるでしょう。

不安定な時代だからこそ、人の真価が問われます。AIが発達する社会だからこそ、人間としての温かさと信頼が一層尊いものとなります。本校で培った精神を礎に、自らの道を切り拓き、社会に有為な人として大きく羽ばたいてください。

皆さんの前途に幸多からんことを心より祈念し、はなむけの言葉といたします。



「ありがとう」

第3学年F組担任 小谷野 和之

3年間ありがとうございました。この3年間、授業やホームルーム、部活動で君たちと一緒に過ごして、楽しい思い出も苦しい思い出もでき、私自身もすごく成長を実感できた3年間でした。君たちが今日、卒業式を迎えて新たな一歩を踏み出すように、私もこの3年間の経験を糧に日々精進していきます。

そして、今日は節目の日として、ぜひ感謝の言葉を述べてください。仲間たち、先生方、保護者、今日に至るまでたくさんの人に支えてもらったと思います。その感謝の気持ちを表現する一日にしてください。

君たちのこれからの飛躍を応援しています。本当にありがとう！

「Leap Before You Look」

第3学年C組担任 藤原 翔



W.H. オーデンに「Leap Before You Look」という詩があります。「見る前に跳べ」と訳される詩ですが、その中の「Look if you like, but you will have to leap」を大江健三郎は作品の中で「お好きなように、見るのもいいですよ、でも跳ばなくちゃならないことになりましょうな」と訳しました。見ているか、勇気をもって飛び出すか、この先の人生で度々、選択を迫られると思います。どちらを選んでも間違いはないわけですが、険しい道にこそ心を磨くヒントがあるように思います。とはいっても、苦難を一人で引き受けるのはあまりにも酷です。

学校の良さは生き合う経験を積み重ねられることだと思っています。これからの人生は自由であるからこそ孤独を伴います。その時に、生き合った証拠は必ず希望になるはずです。なんとか乗り切った生活が、振り返れば誠実に生きた過去として光るのです。それを糧にして人は生き延びるのだと思います。卒業おめでとう。祝意と生き合った証拠をここに書き記します。



「祝卒業」 第3学年協力担任 古屋 善之

ご卒業おめでとうございます。これから君たちには様々な道が開けます。自分の信じる道を切り開き、今以上にカッコいい人物に成長することを期待しています！

これから新たな挑戦をする君たちに激励の意味をこめて、武者小路実篤さんの詩である『もう一息』を贈ります。

『もう一息』

もう一息という処でくたばっては何事もものにならない

もう一息 それにうちかってもう一息

それにも打ち克って もう一息 もう一息

もうだめだ それをもう一息

勝利は大変だ だがもう一息

君たちの益々の活躍を祈念いたします！

「卒業おめでとうございます」

第3学年D組担任 阪上 大樹



卒業おめでとうございます。高入生は3年間、一貫生は最大で4年間の付き合いでしたが、卒業にあたり、君たち一人ひとりの成長に立ち会えたことを強く実感しています。

現時点で入試を含め、進路に向けた取り組みが印象に残っている人も多いと思いますが、日々の学校生活や授業、学校行事、部活動、委員会活動など、数多くの経験の積み重ねの中で、君たちは確実に成長してきました。ただし、中学・高校での生活は、先生方のサポートがあった上で成り立っていたものでもあります。これからは「大人」として扱われ、大人のフォローがない中で、人としてどのように周囲と関われるか、その人間性が評価される場面が増えていきます。また、多くの人は社会人になるまでのこの数年間は自分のためだけに使える時間です。有効に活用し、自分にできることを一つでも多く増やしてください。これからの皆さんの活躍を期待しています。

「ご卒業おめでとうございます」

高校保健室 田中 梨菜



高校3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

高校で過ごした3年間は、短かったですか？長かったですか？卒業後の時間は本当にあっという間です。どのくらいあっという間かという、ふと気がついたときにはもう子どもではいられなくなっていて、社会に出て働き、自分の行動の一つ一つに責任が伴うようになっています。そして卒業から何年も経っていることに気づきます。

なんて言われても、まだよく分からないでしょう。そんなあっという間な毎日の中でも、つまずいたときや悩んだときには「こうあるべき」という固定観念を捨て、自分が自分でいられる選択をしていってください。

皆さんのこれからの、これからも応援しています。

「卒業おめでとうございます」

第3学年E組担任 板垣 徳明



卒業おめでとうございます。

三年間の高校生活は、皆さんにとってどんな時間だったでしょうか。楽しかったこと、悔しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、涙を流した日もあったかもしれません。その一つひとつが、かけがえのない青春の一ページです。その時間を皆さんと共に過ごせたことを、私は心から嬉しく思います。皆さんの人生はまだ始まったばかりです。「何になるか」も大事なことです。それ以上に「どう生きるか」を大切にしたいです。困難に出会っても逃げずに向き合い自分を信じて挑み続けてください。結果はどうであれ、挑戦した分だけ人は強くなります。失敗を恐れず自分らしく前へ進んでほしいと思います。皆さんの未来が輝くことを願っています。

今井雅晴『日本人の心の言葉 一遍』創元社2014年
P. 128. -P. 129. より

「ただすなおに感動を」

はながいる月がひかりと ながむれば
こころはものを おもわざりけり

【現代語訳】花は色が美しい、月は光がきれいだとすなおに
感じていけば、人のこころは悩むことなどないのですよ。
(『一遍聖絵』第六巻第一段)

弘安五年(一二八二)三月、一遍は相模国の片瀬の浜の地藏堂で念仏を称えていたところ、多くの参詣人がありました。四十四歳の時です。三月の末には紫雲が立ち、花が降り始めるという奇瑞(吉事の前兆)があったといいます。参詣の人の中には、「これはいったいどういうことですか？ほんとうの奇瑞ですか？」などと疑う人たちがいました。(同書67頁参照)このような奇瑞には、①空に紫雲が立つ、②天から花が降る、③妙なる音楽が聞こえてくる、④よい香りがただよってくる、という四種類ありました。だれかの臨終のとき、このような奇瑞が現われれば、その人は極楽往生疑いなしとされました。臨終でなくても、奇瑞は極楽をめざす行ないが間違っていないという証拠とみなされました。

それに対して一遍は、「花が美しくれば美しい、月の光がきれいならきれいと、ただ感動していればいいのですよ。ほんとうか嘘かなんて思い悩む必要はありません。極楽往生はこころが状況を判断して決めるものではありませんから」と強く言い切ったのです。「ながむ」というのは、「ぼんやりと見ている」という意味です。何も考えなければこころが動揺することもないのです。



「卒業生へ贈る言葉」

図書館司書教諭 津久井 美江

「本を読んだ方がいいよ」周囲の大人から何度も聞いたことのある言葉だと思います。国語力がアップすると
言った面もありますが、本の中には素敵な言葉がたくさんあるので見つけて下さい。その「言葉の力」が皆さんの人生の「お守り」になってくれると思います。

卒業する皆さんへの餞に、たくちひさとさんの詩を贈ります。「本を読みなさい(略)本は教えてくれる これからの生き方を 本は支えてくれる どんなつらいときでも 本は助けてくれる 悩んでいるときに いつでもどこでも何度でも読めて 学べるのが本のよさ」
(『もっと人生はたのしくなる』ダイヤモンド社2021年P. 202. -P. 203. より)



第66号をお読み頂きありがとうございました。
またお忙しい中、短い期間にも関わらず、高校3年生へのはなむけの御言葉を寄せていただきました先生方、誠にありがとうございます。
卒業生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。大銀杏第66号が発行でき、よかったです。
先輩方の卒業後のご活躍をお祈りいたします。
(新聞部)



「卒業おめでとうございます」

中学保健室 古川 真理子

保健室ではたくさんの笑顔を見せてくれましたね。元気いっぱいに来てくれた日も、少し疲れた顔でそっとドアを開けてくれた日も、どれも大切な思い出です。

ここまで本当によく頑張りましたね。これから先、うれしいこともあれば、不安になることもあるでしょう。そんなときは、どうか一人で抱え込まず、自分の心と体の声に耳を傾けてください。休むことも、立ち止まることも、前に進むための大事な一歩です。

みなさんが自分らしく、あたたかい毎日を重ねていきますように。いつまでも、そっと応援しています。